

移住の歴史を振り返る

市の人口は、55,397人。その内、外国人登録者数は6,028人で、人口の約1割が外国人です。その中でも、ブラジル人が3,793人と約6割を占め、次いでフィリピン人1,462人、中国人409人となっています（7月1日現在）。そのブラジル人の多くは日系人と呼ばれる人たちで、かつて日本からブラジル（伯）に移住した人たちの子孫です。

今年は、移住が始まって100年。「日本人ブラジル移住100周年」「岐阜県人ブラジル移住95周年」「ブラジル岐阜県人会創立70周年」という三つの慶事が重なりました。

日本からみてブラジルは、世界で最も遠方の国の一つですが、歴史的には非常に身近な国です。

最近では、住宅を購入したり店を経営したりして定住する人も増え、ますます身近になってきています。共に生き・共に暮らしていくために、今回は、日系人の歴史・ルーツを紹介します。

また、県国際交流センターは、日本人ブラジル移住100周年を記念して、「日本人ブラジル移住100周年歴史巡回展」を開催しました。市では、市内3校などで写真パネルを展示し、国際交流員がブラジル移住の歴史などについて話をしました。その感想を5ページに掲載しています。

特集

Special
Edition

ブラジル移住 100 周年

渡航

熱き思いを胸に
新天地を求めて

アマゾン開拓。建設先
発隊入山の際に撮影さ
れたもの
写真：浅野純麗氏所蔵
広島市提供